

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド

東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望＝ドル円は104～105円台を中心とするもみ合いか

[10月26日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)			10月16日～10月22日		
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	105.41	105.75(19)	104.34(20)	104.73	-0.67
ユーロ・ドル	1.1720	1.1881(20)	1.1703(16)	1.1798	+0.0080
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終 値	前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	23,516.59	+105.96	日本10年債利回り	0.037	+0.014
ダウ平均株価	28,363.66	-242.65	米10年債利回り	0.856	+0.111

<来週の主要経済統計等>

26日 日本8月景気動向指数改定値

独10月ifo景況感指数

米9月新築住宅販売件数

27日 NZ9月貿易収支

米9月耐久財受注

米8月住宅価格指数、米8月S&Pケースシャー住宅価格指数

米10月消費者信頼感指数

28日 豪第3四半期消費者物価指数

米MBA住宅ローン申請件数

カナダ銀行(BOC)政策金利

29日 日本9月小売業販売額

日銀金融政策決定会合(28～29日)・金融政策発表

独10月雇用統計

米第3四半期国内総生産(GDP)速報値、米新規失業保険申請件数

欧州中央銀行(ECB)政策金利

ラガルドECB総裁記者会見

独10月消費者物価指数速報値

米9月中古住宅販売成約指数

30日 日本9月雇用統計、日本9月有効求人倍率

日本9月鉱工業生産指数

豪第3四半期生産者物価指数

独第3四半期国内総生産(GDP)速報値

スイス9月小売売上高

スイス10月KOF先行指数

ユーロ圏第3四半期域内総生産(GDP)速報値

ユーロ圏10月消費者物価指数速報値、ユーロ圏9月雇用統計

米9月個人所得・個人支出、米9月PCEデフレーター

カナダ9月鉱工業製品価格

米第3四半期雇用コスト指数

米10月シカゴ購買部協会景気指数

米10月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

31日 中国10月製造業購買担当景気指数

【前回のレビュー】ドルが買われる場面では円も買われやすく、ドル円は105円台でのみ合いが継続している。105円割れでは買いに支えられやすいとみられるが、106円超では売りに押されやすくなるとみられ、ドル円は105円台を中心とするもみ

合いが続くとした。

【米大統領選が近づき、模様眺め気分が広がるか】

11月3日の米大統領選まで残り2週間を切ってきた。選挙が近づく中、米国株は高値から調整局面となっている。米政府と民主党による追加経済対策を巡る協議が継続しており、それに関する報道に一喜一憂して株価は高下している。

そうした中、ドル円は14日に105円近辺まで軟化したものの、105円台を維持したことで、20日には105.75円近辺まで上昇した。ただ、21日にドルが対人民元や対ポンドで下落したことを受けて、ドル円は104.34近辺まで売られることとなった。その後はやや下げ渋りを見せているが、104円台での推移にとどまっている。日経平均は2万3500円近辺での一進一退の動きとなっている。

米国での追加の経済対策は「いずれは合意する」とみられているものの、大統領選の前に合意するかは不透明となっている。目先は協議の動向に関連する報道に左右されて日米の株は上下に振幅するとみられる。なお、合意にはまだ時間を要するとみられ、その場合は株価には重石となりそうだ。

このところは、リスク選好の高まりでドル売り円売り、リスク回避の動きからドル買い円買いに傾きやすくなっている。このため、ドル円は方向感が出にくい流れを見せている。ただ、ドル買い円買いとなった場面ではやや円買いが勝るケースが多い。

22日に開催された最後の大統領候補者討論会はかなりまとめた討論会となった。前回の討論会は非難合戦で終わったが、今回はきちんと議論が交わされた。新型コロナウイルスへの対応、北朝鮮の核開発問題などで議論の応酬となった。ただ、東京時間の株式、為替市場にはそれほど目立った影響はなかった。

ドル円は米大統領選挙を控えて模様眺め気分が広がりやすくなる展開が予想される。そうした中、米国の追加経済対策関連の報道に左右されやすい状況が続くこととなる。しばらくの間は経済指標への注目度はやや低下しそうだ。ドル円は105円の節目を割り込んではいくものの、ここからの下げは限定的で104円を大きく割り込むことはないとみられる。このため、ドル円は104～105円台を中心とするもみ合いで推移する展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、104.00～106.30円。

なお、29日には日銀金融政策決定会合の結果発表がある。今回の会合では金融政策に変更はないとみられる。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、26日に日本8月景気動向指数改定値、米9月新築住宅販売件数、27日に米9月耐久財受注、米8月住宅価格指数、米8月S&Pケースシャー住宅価格指数、米10月消費者信頼感指数、28日に米MBA住宅ローン申請件数、29日に日本9月小売業販売額、日銀金融政策決定会合（28～29日）・金融政策発表、米第3四半期国内総生産（GDP）速報値、米新規失業保険申請件数、米9月中古住宅販売成約指数、30日に日本9月雇用統計、日本9月有効求人倍率、日本9月鉱工業生産指数、米9月個人所得・個人支出、米9月PCEデフレーター、米第3四半期雇用コスト指数、米10月シカゴ購買部協会景気指数、米10月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは上昇一服となり、修正安に転換か】

欧州での新型コロナウイルスの感染再拡大により、各国で店舗の営業時間や行動の制限、規制が強化されており、ユーロドルの売りにつながった。15日には一時1.17ドルを割り込み、1.1689前後まで下落した。ただ、翌日以降は新型コロナウイルスのワクチン開発への期待感や欧米の株高などを背景に上昇基調で推移して、21日には1.1881前後まで上値を伸ばした。

米国株の堅調な動きや米国の追加経済対策への期待感からドル売りの動きに傾いているものの、欧州での感染再拡大は景気の足を引っ張る要因として警戒される。ユーロ買いドル売りの流れは一服して、ユーロドルの上昇は頭打ちとなり、修正安に転じるとみ

られる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1. 1650～1. 1900ドル。

29日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、金融政策に変更はないとみられる。政策金利は据え置きとなり、パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の規模を1兆3500億ユーロ（約170兆円）で維持すると予想される。欧州各国では感染再拡大で、各国での規制措置が広がっており、今後景気への悪影響が警戒される。一段の景気悪化が顕在化してくると、次回12月10日の会合では、追加措置に動く可能性が出てくることとなる。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、26日に独10月IFO景況感指数、27日にNZ9月貿易収支、28日に豪第3四半期消費者物価指数、カナダ銀行（BOC）政策金利、29日に独10月雇用統計、欧州中央銀行（ECB）政策金利、ラガルドECB総裁記者会見、独10月消費者物価指数速報値、30日に豪第3四半期生産者物価指数、独第3四半期国内総生産（GDP）速報値、スイス9月小売売上高、スイス10月KOF先行指数、ユーロ圏第3四半期域内総生産（GDP）速報値、ユーロ圏10月消費者物価指数速報値、ユーロ圏9月雇用統計、カナダ9月鉱工業製品価格、31日に中国10月製造業購買担当景気指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。